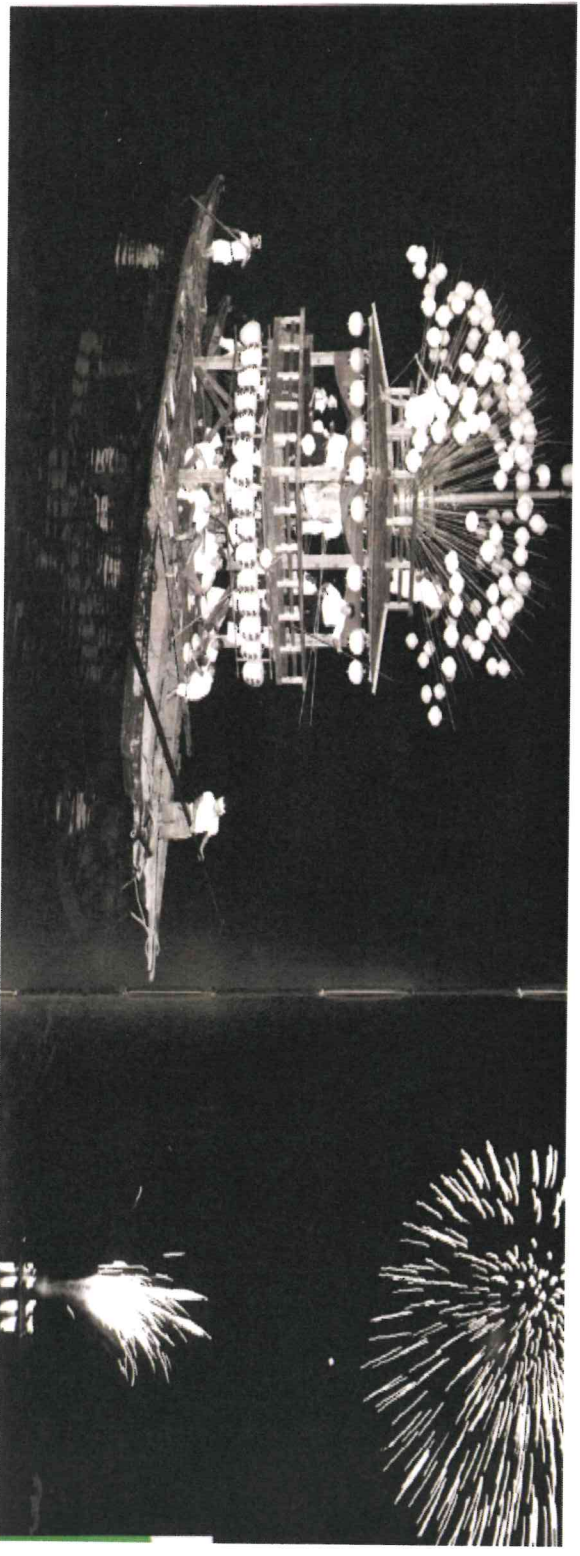


無言のまきわら舟

やがて川祭り。河面に浮かびまきわら舟は風景として大きな役目を果たす。古い歴史と共に鎮魂と豊穣等への願いを込めての事と思う。祭りには、笛太鼓のお囃子が流れ、その雰囲気を感じ上げる。でも、起の湊に浮かびまきわら舟にはその鳴り物がない……。

事情があつたことと思うけれど、その方向への努力をしてもらいたいものである。そのお囃子の聞ける日は来ないのか、来るのか……。



動くスタッフ

湊屋のスタッフメンバーはよく動く。

朝の掃除を済ませ、お客様を待つ。明るい顔と声でお客を迎える。心を込めて用意した料理を差し出す。当たり前のことといえ、精一杯魂を込めて接客をする。

夏期には庭に余分な草が繁る。障子の張り替え、夏座布団の用意、男手の居ない蔵の整理もする。不満らしきこともあの表情を眺める限り無さそうである。というより、積極的に細かいところに気を配るスタッフ達……。だから湊屋は輝いていく。

この明るい空気が来店の皆さんにご理解いただけるのである。頑張りますよ。

嘆き

湊屋西側（旧美濃路）を走行するどの車もハイスピードで疾走する。歩くのに横断するのに注意力を要する。申すに及ばず旧美濃路の街道である。訪れる観光客を案内する時に、複雑な心境になる。このままでいいのか。何ともならないのか。我慢しなさいという事なのか。

時代の流れは、スピードのある強いものが便利を優先する。静かで、落ちついた弱い者が負けてしまう……。

